

平成26年度

千葉市教育研究会 中学校造形部会 授業研究

本校研究主題

基礎・基本の定着を図るための学習指導のあり方

—学習意欲・学習習慣の改善をととして—

美術科研究主題

表現する楽しさを実感し、

主体的に表現活動に取り組む授業の創造

日時 平成26年10月21日(火)

授業展開 5校時 (14:00~14:50)

協議会 15:00~16:30

場所 授業展開 美術室

協議会 美術室



千葉市立末広中学校

千葉県教育研究会中学校造形部会 授業研究学習指導案

授業者：石塚 直樹
 展開学級：2年 A組
 展開場所：美術室

1 題材名 鑑賞「日本絵画を味わおう」～浮世絵の世界～

2 題材の考察

(1) 題材とその構成について

本題材は、日本を代表する絵画である浮世絵の鑑賞を通し、作品の見方や感じ方、よさや美しさを読み解き、自分なりの解釈を深めるとともに、グループでの鑑賞活動も取り入れることで新たな発見や興味をもつことをねらいとしている。

浮世絵は江戸250年の歴史がある。これまで中心であった御用絵画から、庶民の絵画へと変わっていき、その作り手も民間の職人が中心であった。錦絵という多版多色版画の技術が確立され、世界の印刷技術に大きな影響を与えた。浮世絵（風景）のおもしろさは、色彩の鮮やかさと、大胆な構図にある。また、本校の学区に隣接する千葉市美術館には、美術品収集のコレクションとして近世・近代の日本の絵画・版画があり、浮世絵も数多く収集されており、本題材で取り上げる作品もある。この日本を代表する伝統的な絵画である浮世絵を積極的な鑑賞を通し、美術作品のよさを深く味わわせたい。

今回は北斎の富嶽三十六景を取り上げ、「末広QUEST」（指導案の展開部を参照）を利用して深く鑑賞をさせたい。そして、この活動を通して、鑑賞の基礎となるものの見方や、作品から受ける印象などを感じとり、美術に対する関心を高めさせたい。また、美術館への関心も高めさせることで、郷土の美術や文化に対する理解や愛情を深めていきたい。

(2) 本時の展開について

本時の指導は、「末広QUEST」を利用して、浮世絵作品を多方面からのアプローチで鑑賞を深めさせるものである。個々に作品から受ける印象をまとめるだけでなく、グループでの鑑賞活動も取り入れる。そこで、自分の考えを発表したり、自分の価値意識をもって批評したりすることで、新たな発見や興味深く鑑賞する機会となるようにしたい。

(3) 生徒の実態について

アンケートから、美術全般に関しては、好きであるというポイントがおおむね高い結果が出た。しかし平面（特に絵画の分野）に対する苦手意識をもっている生徒は多い。工芸等の立体的なもの作りに対しては好きであるポイントが最も高く、実際の作品作りでも丁寧な取り組みが見られる。

授業では、ほぼ全員が意欲的に作品制作に取り組んでおり、関心・意欲の面では良好な集団である。しかし、作業の内容によっては効率的でなかったり、集中力が持続しなかったりする場面も見受けられる。発想や構想の観点では、センスの良さを感じさせる生徒が数名おり、技能の面でも高い能力を発揮している。

毎年夏季休業中の課題として、全学年の生徒に千葉市美術館での展覧会を鑑賞させ、そのレポートを提出させている。その成果として、作品を鑑賞することに対する反応はおおむね良好である。

3 題材の指導計画と評価規準 …………… 全2時間扱い（本時…1／2）

指導内容	時配	主な評価規準
「末広QUEST」で作品を観ていこう（本時）	1	・「末広QUEST」を進めながら、自分の感じ方で作品から受ける印象を感じ取り見方を深めることができる。（鑑賞）
浮世絵について調べ葛飾北斎に注目させる	1	・浮世絵や葛飾北斎について調査し、日本絵画の歴史や文化に対する理解と愛情を深めることができる。（関心・意欲・態度） ・他版多色木版画について理解し、作品の美しさを感じ取ることができる。（関心・意欲・態度）

4 本時

(1) 目標

- ①作品の良さや美しさを鑑賞する喜びを味わうことができる。(関心・意欲・態度)
- ②千葉市美術館の所蔵作品を鑑賞することで、郷土の美術や文化に対する理解や愛情を深めることができる。(関心・意欲・態度)
- ③「末広QUEST」を進めながら、自分の感じ方で作品から受ける印象を感じ取り見方を深めることができる。(鑑賞)

(2) 展開

過程	時間	学習内容と活動	指導上の留意点	評価(○)とそれに対する支援(●)
導入	5	<p>1 挨拶・用具類の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始の挨拶をする。 ・ワークシートを受け取る。 ・鑑賞作品を受け取る。 <p>2 課題提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「末広QUEST」で作品を観ていこう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の準備に不備がないか確認する。 ・班毎に生徒を取りに来させる。 ・「末広QUEST」を利用して作品を鑑賞させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容が理解できているか。(観察) ●指示に従って感じたことを表現しよう。
展開	40	<p>3 鑑賞活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾北斎の富嶽三十六景、神奈川沖浪裏を「末広QUEST」を利用して鑑賞する。(作品名はまだ言わない) <p style="text-align: center;">「末広QUEST」(基本的・美術編)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Q1:この作品が好きですか?その理由もあげてください。</p> <p>Q2:作品の中に何が描いてありますか?その数は?何をしていますか?描いてある物を見つけよう。</p> <p>Q3:この作品の季節や時間帯はいつごろだと思いますか?描いてある物や色から推理してみよう。</p> <p>Q4:この作品の美しさを発見しよう。どんなところが美しいと思いますか?あなたが考える美しさってなんだと思いますか?</p> <p>Q5:作者は、なんでこの場所(構図)で作品をつくったと思いますか?</p> <p>Q6:今までに気づいたことをもとに、この作品に自由にタイトルをつけてください。どのようなことをもとにそのタイトルをつけたのですか?</p> <p>Q7:はじめより少しでもこの作品を好きになれましたか?その理由も教えてください。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの質問を提示したあとに5分程度の時間をとる。質問によっては班で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品に興味を持ち、進んで「末広QUEST」を進めようとしているか。(観察) ●正解や不正解を求めるものではないので感じたままを表現しよう。 ○自分の感じ方で作品から受ける印象を感じ取ったり思考したりすることができるか。(観察・ワークシート) ●自分が感じたままにワークシートに記入してみよう。
整理	5	<p>4 片付けと次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを提出する。 ・鑑賞作品を回収する。 ・次時の授業の連絡を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛飾北斎について、富嶽三十六景について、浮世絵について、多版多色木版画について、千葉市美術館について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品に対する興味や関心が深まったか。(観察・ワークシート) ●気になったことをあげてみよう。

(3) 評価

- ①作品の良さや美しさを鑑賞する喜びを味わうことができたか。(関心・意欲・態度)
- ②千葉市美術館の所蔵作品を鑑賞することで、郷土の美術や文化に対する理解や愛情を深めることができたか。(関心・意欲・態度)
- ③グループでの鑑賞活動を通して、自分の考えを发表或しり自分の価値意識をもって批評したりすることで、作品から受ける印象を感じ取ったり思考することができたか。(鑑賞)

葛飾北斎 カツシカ ホクサイ Katsusika Hokusai
富嶽三十六景 神奈川沖浪裏
分類：版画 制作年：天保2～4(1831～1833)年頃
技法：横大判錦絵 寸法：24.8x37.3cm



葛飾北斎（1760-1849）が天保2年頃起筆したこのシリーズは、霊峰富士に対する庶民の信仰心にも支えられて、大変人気を呼んだらしい。また当時輸入された舶来の藍色、いわゆる《べろりん藍》を積極的に用いた独特の色彩感覚も注目される。主版を藍摺とした36図が出版された後、それが人気を呼んで主版が墨摺の裏富士とも呼ばれる10図が追加されている。

すでに70歳に達していたとは思えない新鮮な感性で、時や場所によって様々に姿を変容させる富士に意欲的に取り組んだこの作品は、北斎の風景画家としての地位を不動のものにし、同時期に「東海道五十三次」のシリーズを発表した広重と共に、浮世絵風景画の在り方を一新し、風景画の位置付けを大きく高めた意義深い作品である。

本図は、ダイナミックな波のうねりに圧倒される刺激的な作品としてつとに名高い北斎の代表作。豪快に立ち上がる波が、大きく雄大なはずの富士山を小さい存在に位置付け、さらに波の飛沫が生き物のような動きを備えるのに対し、翻弄される小舟に乗る漕ぎ手たちは人形のように動きを硬直させるという、二重の逆転の発想が面白く新鮮である。これは同時に動と静の対比であり、富士の冷徹さ、人間の無力さが、波の躍動の中に確かな主張をしている。

波を際立たせるために空は控えめな色版だけで現されている。本版は褪色とヤケによりさらに雲形がわかりにくくなっているが、摺の良好な作品である。（千葉県美術館所蔵作品）

千葉県美術館HPより

他の資料から・・・

画狂・葛飾北斎による連作錦絵『富嶽三十六景』中でも特に知られる傑作中の傑作『神奈川沖浪裏（かながわおきなみうら）』。本作は1831年（天保2年）頃に刊行されたと推測される連作錦絵作品『富嶽三十六景』の中の1点で、神奈川沖の荒れ狂う海の様子を大胆に表現した作品である。画面左側には本作中で最も観る者を惹きつけているであろう荒々しくうねる大波が描かれており、その様子はあたかも画面右側に配される小舟へと襲いかかるようである。先端を激しく砕け散らせながら生き物のように巨大化する大波と、必死に船にしがみつきながら舟を進める船頭たちは、抗うことのできない自然の圧倒的な力と人間の無力さを表しているようであり、低視点（小舟）で捉えられた劇的な場面表現は観る者をも圧倒する。また画面中央に配される遠景の富嶽（富士山）は、画面前景で繰り広げられる動と静、近と遠、変化と不変という意味で見事な対比を示しており、そこには深く近代的な精神性を見出すことができる。さらに造形的観点から本作を考察しても、強弱を極端に強調した激しい曲線によって流々と表現される波の円運動とその連鎖は画面の中で一体となり、他では類を見ないほどのスケールの大きさを醸し出すことに成功している。また波の重なりや陰影によって浮き出る縞模様や、波濤（大波）が作り出した粒状の水飛沫の装飾性も特に優れた出来栄を示している。なお後期印象派の画家フィンセント・ファン・ゴッホが称賛の言葉を残しているほか、印象主義音楽の大作作曲家ドビュッシーが本作に着想を得て交響詩『海』を作曲している。

※「富嶽三十六景」は本来「富嶽三十六景」と書く。

◎部分解説

【遠景で悠然と構える富士山】

遠景で悠然と構える富士山。画面中央に配される遠景の富嶽（富士山）は、画面前景で繰り広げられる動と静、近と遠、変化と不変という意味で見事な対比を示しており、そこには深く近代的な精神性を見出すことができる。

【生き物のように巨大化する大波】

先端を激しく砕け散らせながら生き物のように巨大化する大波。本作は1831年（天保2年）頃に刊行されたと推測される北斎の最高傑作、連作錦絵作品『富嶽三十六景』の中の1点で、神奈川沖の荒れ狂う海の様子を大胆かつ綿密に表現した作品である。

【陰影によって浮き出る縞模様】

波の重なりや陰影によって浮き出る縞模様。造形的観点から本作を考察しても、強弱を極端に強調した激しい曲線によって表現される波の円運動とその連鎖は画面の中で一体となり、他では類を見ないほどのスケールの大きさを醸し出している。

自然の偉大な力の前では無力な人間。本作の前景に描かれる大波と船頭らは抗うことのできない自然の圧倒的な力と人間の無力さを表しているようであり、低視点（小舟）で捉えられた劇的な場面表現は観る者をも圧倒する。

教科書2・3下P45に作品収録

大人の塗り絵「花鳥風月編」河出書房新社 収録

千葉市立末広中学校 石塚直樹